

観自在

弘長寺寺報
第三十三号
平成二十八年八月(年
二回発行)

最近の葬儀事情に思う

弘長寺住職 森田裕光

昨今の葬儀の急激な変化には驚きを禁じ得ません。

宍道町にJ A葬祭会館「虹のホール」ができるまでは宅葬が主流でしたが、できた途端に殆どの葬儀がその会館か、あるいは公民館で行われるようになりました。

広い駐車場と冷暖房つきですから、それは会葬者にとっても遺族・親族にとっても、そして僧侶にとっても確かに快適です。

それにともなつて死場勤めや葬儀形式も変わつて参りました。

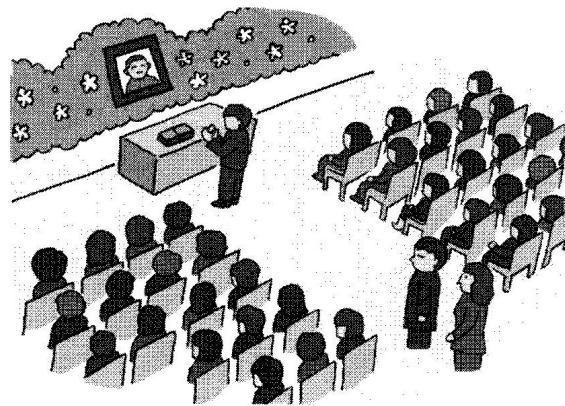
昔は葬儀後に法炬たいまつを先頭にして、お墓まで決められた持ち物を持ち、行列をつくつて埋葬したものですが、現在は行列も皆無になり、死場組の仕事が激減しました。すぐに埋めるのは忍びないとしてその日の内に埋葬をせず、しばらく遺骨を家にお祀りしてから身内で埋葬をする方が殆どです。

会館葬が宅葬より経費が嵩むため、それを抑えようと小規模な家族葬でという申し込みが多くなりました。

(今年一月〜五月まで、殆どが家族葬でのお申し込みでした)
今、都云では直送が急増しています。(葬儀全体の二十一%)

直葬(ちよくそう・じきそう)とは、お坊さんの読経抜き、会葬者抜きで、火葬場にて遺体処理だけをしようというのです。

それを後押しするように宗教学者や評論家が、「葬式はいらない」とか「0葬」という本を出版したりするものですからそれで良いと思うようになって来ているのです。



いえぬ」行為だと私は思います。

ここまで私を育てていただいた両親や祖父母・家族に対する「感謝・報恩・成仏」への思いなど、その物扱いの行為の中に見いだすことはとてもできません。

僧侶で芥川賞作家の玄侑宗久師は、葬式無用論に対して、「故人を回顧し、ふんぎりをつけ、希望を見出すために葬儀がある」(中央公論誌上)と述べておられます。

もつと付け加えれば、「お返ししようにもお返し仕切れぬほどの育てていただいたご恩に対し、私ができる限りその尊厳にふさわしい葬儀をさせていただき、人間としてさらに正しく生きてまいりますとの誓いを新たに立てるために」も葬儀はあるのです。

生と死の教え

弘長寺護持会
会長 武田民三

弘長寺護持会の皆さまには、
いよいよご健勝にてお過ごし
のことと拝察いたします。

日本の四季も、だんだん変
化したようにお思いになりま
せんか。

異常気象といわれて久しい
ですが、それに伴ってエネル
ギーの問題も大きく議論され
る時代です。

特に「原子力発電」の可否
について、ある宗教の代表者
が、「今度の参議院選挙は、
教団の方針として原発推進の
政党には投票しないように！」
と指令を発したニュースが週
刊誌上などで問題視されてい
ます。

そもそも「政教分離」は国
家の法律で定められているこ
とは高校生ならずとも理解す
るテーマだと思っております。

件の代表者は、「宗教運動
は、時代の制約下にあつて、
これを原理主義（ファンダメ
ンタリズム）という」とか？

宗教とは、「教えの元」で
あるから宗教というのだ、と
教えて頂いたことを思い出し
ます。

宗教が宗派や教団により
「真理」が異なつたのでは、
それは「真理」とは言わない
のではないのかと思いません
か。



それはさておくとして、よ
くお寺さんの説教や法話にで
てくる言葉に「成仏する」と
ありますが、成仏とは死ぬこ

とではなくて、本来、人は
「成れる佛」であると教えら
れていきます。

お互いが、その真理・実相
を認めあつて拝みあう。

それを実行する生活こそが
大切と説かれるのですが。
（合掌はお寺さんの専売特許
ではない！）

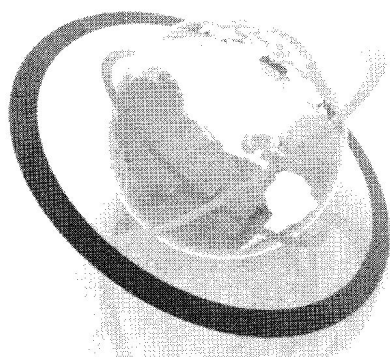
私たちの曹洞宗の開祖・道
元さまは「宗教は人々の生活
に生まれ、生活の中に在る」
と教えて下さいます。

しかし今、その生活を振り
返ると、あまりにも「自由主
義」で、大切なものを忘れて
しまい「平和ボケ」した社会
となつてはいないでしょうか。

あるテレビのクイズ番組に
出演している東大卒の学者？
が「COP21」を答えられ
ない！

或いは、幼児に「タバコ」
をすすせる親が各地で摘発さ
れたニュースもありましたね。
これは「人間は不寛容なも
の（不寛容社会）」と容認す

最近のインターネットのも
のすごい力には驚かされます
よね。



ツイッターとかSNS（つ
ぶやき）が「匿名」であるこ
とをよいことに、無責任な誹
謗中傷をする。

しかもそれを「正義」と錯
覚し、乱暴にエスカレートし
ていく社会……。

このような人生を終わると
き、その人々はどのような終
焉を迎えるでしょうかね。
人はだれでも、この世（現
象世界）に生まれて来る、そ

して必ず死を迎える。
ひっそりとした静かな自然の死もあるけど、殺害や破壊を繰り返した非業の死もあります。

先ごろ亡くなった「作詞家・永 六輔」さんの言葉に、「生まれて来て良かった！生きて来て良かった！このように思いで人生を終わることが出来る人を大往生と云う」とあります。

あるホスピスの先生が、「人の生きざまが死にざま」と話していました。
どんなに立派な人生を生きても、死にざままで計られるのだとあります。



では「肉体が死んだとき、人はもう命のない物体と化するのか」「人の命とは、たったそれだけのものなのか」「後は骨や灰だけのものなのか」とも言えますね。

しかし、それで凡てが終わるのではなくて、本当の「いのち」は死にはしない！
また、どこかに生まれて来るのだ（輪廻転生）と教えられるのだ（輪廻転生）と教えられる。

それは丁度、芝居の一幕が終わっても、その役者はまた次の一幕にも出てきて、別の演目が続けるようなものであると。
やれやれ、これでやっと安心できましたね。

どこかの総理大臣が「人生もイロイロ」とか言っていました。人生は喜怒哀楽・悲喜交々と達観して「今日が一番の好日である」と明るく生きていきたいものです。

ところで、護持会皆さまの

総力で立派になった菩提寺の堂宇を活用して、老若男女、挙って参加していただける素晴らしい催しを、副住職の余裕さまが企画して下さいます。

それを護持会の事業としてやりたいと思っております。楽しみにいたしましょう。

菩提寺の発展と檀家皆さまのますますのご繁栄、ご健勝をお祈りさせていただきます。ありがとうございます。

合掌

笑い与健康

護持会副会長

内田 松寿

六月十一日、くにびきメッセであった市民公開講座「笑いと医療」を聴きに出かけた。

講師は伊藤孝史先生（島根大学医学部附属病院腎臓内科）、春雨や落雷先生（落語真打ち）

で、医学に裏打ちされた、ま

た笑いのプロとしての講演だった。

「笑い療法士」――笑いによって、自己治癒力を高めたり、笑いで病氣予防の手助けをする人――が島根県には三十五人いるそうだ。



笑うことは人間にとっていいことだらけのようだ。

病気を予防したり治したり、免疫学的効用としては、ホルモンの活性化、がん細胞を殺す役割をするNK（ナチュラルキラー）細胞の活性化、人間が本来もっている自然治癒力を高める効果など、笑顔・笑いの驚くべき効用を話された。

伊藤先生は悩んでいる人に

笑いの処方箋として、一日五回笑って、一日五回感動しよう！と。

一日五回笑うのはそんなに難しいことではない。

まず、朝起きたときに鏡を見て、自分にほほえみかけてみる。

そして寝る前にも同じことをしてみる。

これで二回は笑える。

あとは、朝食、昼食、夕食のときに、おいしいねとほほえめば、それでもう五回になっている。

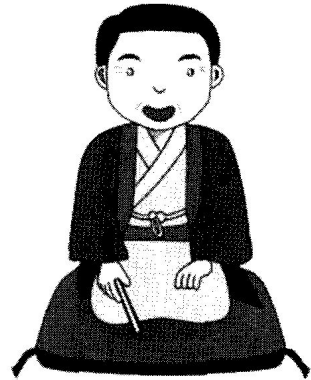
でも、本当は、心からの笑いがほしい。

一日五回感動する、というのは、心からの笑いを引き出すためだ。

ここらあたりの話は、「笑いの医力」(高柳和江著、西村書店)に詳しく載っている。

落雷先生は、落語の後で、笑いと免疫・・・それは健康を増進させ、老化を遅らせ、寿命をのばし、老後の活性を

高め、そしてガンの予防にもなるということをお話された。



クヨクヨするも一生、ケラケラするも一生。笑いこそが楽しく健康に長生きする秘訣である。

仏教のなかにも、「無財(むざい)の七施(しちせ)」とあって、財はなくても人のためにしてあげられることがある。

そのひとつが「和顔施(わがんせ)和顔施(わがんせ)」、にこやかなほほえみです。

合掌

ご法事における

読経の話

弘長寺副住職

森田大裕

皆さんこんにちは、副住職の大裕です。

前回は延命十句観音経について簡単にお話ししてみました。が、今回はもう少しお経の話を続けてみる事に致します。

御法事等でお経を読む事の意味について...

御法事ではお宅へ伺い、もしくはお寺にお越し頂きまして、故人様をご供養申し上げるのですが、当山では皆さまにも一部のお経をご一緒に読誦して頂いております。

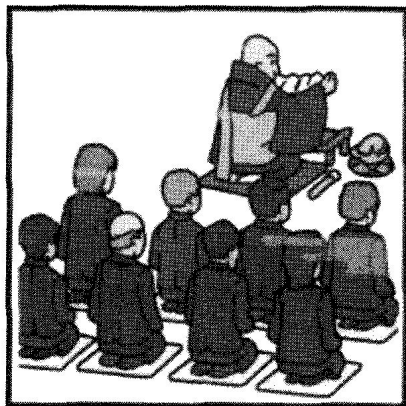
時々、どうやって読めば良いかわからない、どんな調子で読めば良いかわからないといったご質問を頂戴することがありますが、読経に集中して、出来れば大きなお声で、なるべく皆さま声が合うように、という風にお答えしております。

「上手な読経」というものは

無いと、私は思っております。

御親戚の方々もお集まり頂いて今一度人の繋がりを強く実感する場でもあると思えます。

そこでお集まり頂いた皆さまにもわかりやすく修行して頂く意味でも、御当家、御親戚さまにお経本をお配りして共に読経をして頂く、そこには上手も下手も、上位も下位も無い、皆一緒に故人様を偲んで読経する事に意味があると私は思っております。



ですから、ぜひとも御法事におかれましては、皆さまどうも遠慮なさらずに前へ前へ座って頂きまして、お経も前へ前へ。

恥ずかしがらずに、自分なりに結構で御座います。多少間違っても構いませんから、しっかりと読経を一緒にしていただければ、と思います。



さて修行、修行と申しますが、我々曹洞宗は禅宗の一派であり、やはり坐禅をその修行の中で最も重要視しております。

当山でも毎月第一木曜日の朝六時より坐禅会を行っております！

足の組み方からお教え致しますし、椅子に座つての坐禅もできますので足腰の悪い方でも修行して頂けます。

興味はあるけれど・・・という方、是非一度お越し下さいませ。

合掌

お知らせ

お願い

●施食会
恒例の当山最大の行事であります山門大施食会法要を八月七日に行います。

施食会布教師は、加茂町光明寺住職 杉原顕道師、演題は「よろこびを分け合うよろこび」でございます。

●盆棚経
盆棚経は昨年、全檀家を廻ることができました。

今年もなるべく全檀家を廻る予定です。

また、数に限りがございますので、イスを使用される方は早目におこしください。

八月十三日～二十日まで、八日間全檀家を目指して副住職と二人で廻ります。

朝七時～夕六時迄、十四日は初盆のお宅に参ります。

初盆参りの時間指定はできません。特に今年初盆は数が多いのでご希望通りにはまいりません。

また、現在山側に来待石が積んでありますが、これを撤去して（あるいは掘って下に埋めて）車が方向転換できるように飯塚組様をお願いしております。

徒弟大裕と二人で手分けして廻りますが、今年ハスタートを弘長寺から鏡ヶ浜東ヶ浜西ヶ池田ヶ小松ヶ中垣ヶ内ヶ峠ヶ久戸ヶ大森ヶ横見ヶ大野ヶ菅原ヶ和名佐ヶ大谷ヶ柳井ヶ穴道ヶ松江方面と廻ります。

●秋葉祭は本年も読経供養のみ、カラオケ大会は諸事情により本年（平成二十八年）まで休止します。

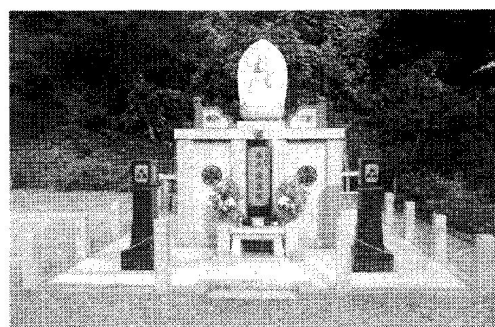
●永代供養塔の聖観世音菩薩様に光背がつけました。

塔全体では少し仏像が小さく感じられましたが、光背によりバランスがよくなりました。

これで九割が完成しました。

後の一割は秋彼岸までには出来上がる予定です。

また、現在山側に来待石が積んでありますが、これを撤去して（あるいは掘って下に埋めて）車が方向転換できるように飯塚組様をお願いしております。



現在、永代供養塔までは車両が入るのですが、帰りは、そのまま駐車場までバックしなければ出れませんので、それを改善いたします。

墓地に関して諸々のご要望があれば、出来る限り善処対応をいたします。

住職は考える ①

法華經に学ぶ

法華經とは何か

仏教を代表するお経は、一般的には般若心経と法華經であり、浄土三部經（浄土系は浄土三部經）

その法華經に対する研究が宗門ではあまりなされてないように感じます。

道元禪師は法華經こそが諸經の大王であるとお示しなされていますが、数年前の研修会で、「道元禪にとつて法華經のどこが有り難いのか」を質問しましたが、著名な講師老師から納得できる答を得ることはできませんでした。

それなら自分で勉強するしかないでしょう。

「正法眼蔵」には「法華転法華」等、法華經の教えが、道元禪の根底には紛れもなく法華經の教えがあることが解ります。

幸い、最近ひろさちや先生が法華經三部作を出

版されましたので、それを参考にしながら法華經を紐解いていきたいと思

私たちが読経している法華經は、大学の鳩摩羅什（三四四一）の譯（三）と、漢訳された法華經（五三八〇）の譯（三）です。

本当はそれ以前にも訳された方がありましたが、採用されていません。

日本で最初に法華經の重要性を説いた方が、聖徳太子（五七四〜六二二）です。



太子は、法華經、勝鬘經、維摩經の三書（ま）を義疏（三）を書き、勝鬘經（義疏）を信仰の對象とすべき（釈迦如来）を説き、

維摩經義疏で信仰者の立場（在家仏教）を説き、法華義疏で根本とすべき經典（法華經）を説いたのです。

そもそも法華經の重要性を主張したお方が、中国の天台山で修行をした智顛（五二八〜五九七）でありました。

天台大師智顛はインドから中国に持ち込まれた漢訳された膨大なお経を、全訳された膨大なお経を、比較的参究して、立順を推測し、最後説かされたのが法華經だと確信した、法華經の最重要性を説かれました。

經典に対して価値・ランク付けをしたのです。これに教相判釈（教判）といえます。

年代別に分けた智顛の教判を五時教判と申しま

- 一、華嚴時
- 二、鹿苑時
- 三、方等時

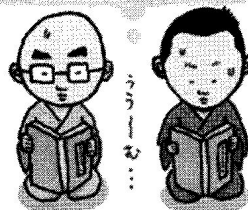
四、般若寺

五、法華涅槃時

現在の宗教歴史学ではこの分け方や順序は完璧な間違いであることが判つています。

間違いではあるのですが、この時代には、驚くべきことです。

所經諸劫數 雖近而不見 咸皆懷戀 願直志柔 願出靈山 茶敬信樂者 及餘諸住處 諸天擊天鼓 勿於此生疑 如醫善方便



無理もないことなのに、直説だと思われたい。直説だと思われたい。

だから当然、道元禪師なども直説であることに疑いなど持たず、お経は明か

住職は考える ②

作動地。ここ読んでひろ先生の驚三部をの文が見つかりまし

恐らくその時私の目玉はまん丸だったろうと思

四号にて書いた私の文章と関連しますので、再掲

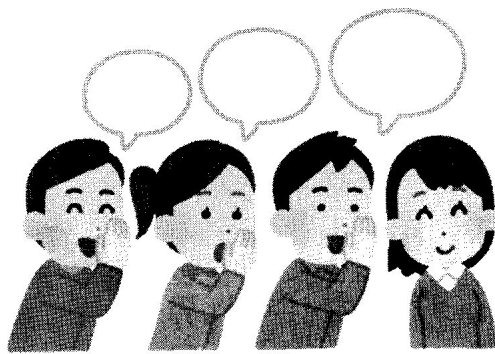
は、そのお釈迦様入滅後三年は、お釈迦様に入滅後三

経典人等の経典、経典、経典、経典、経典、経典、経典、経典、経典、経典

直筆つまりお経はお釈迦様の言葉

で残したものでなく、百年の聞き書き

大切な真理の教えは文字に残さず口伝



積りだ摩訶葉(第一集)の業がなされた

回者秀でた記憶力により

正確に伝えられたと、前代に伝わり、戦国

ある言葉を前の人が、耳元で二つ受けて

最後の人の答えが、この間は、全くと違

百歩譲って正確さを

その質問をある研修会

したことがあります。

私には理解可能ですが、一瞬仰天したのです



しかし受講したお坊さんの方には、信じられな

仏教学を専門に研究さ

なにせ三百年や五百年を一瞬でタイムスリップ

住職は考える ②

する、どちらかといえ
アートマンの肯定、シ
マンのやいな科学的な
躍のような非科学的な
およそ学者先生のイメ
ジとはかけ離れたお答
えなんですものね。

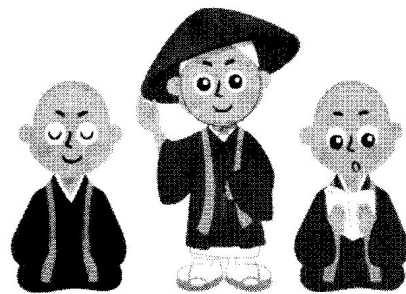
教団は、第二結集で早
くも上座部(小乗系)と
大衆部(大乘系)に別れ
て対立をしています。

結局はシャーマンでは
なく、口伝による教えを
ある程度参考にしたがら
減典の五百年というその
代哲の思想の高度な宗
教が自然ではないでしよ
うか。

少し長い文章でしたが、
最近稀に見る驚きだつた
ものですから引用させて
いただきました。

この先生は、佐々木大
先生といつて、京都大
工学部を卒業、文学部
に入学し、現在、米大
に留学し、現在、米大
教授でいらつしやいます。

その化学者でもある先生
が「憑依」などという言
葉を發せられたのが余り
にも意外で驚いたことを
思い出しました。



ところどころが靈の世界など
とごなるに否定されてき
た法華經三部作、佐々
木先生と同じやうな
で書いていらつしやるの
です。

《法華經とは、「大宇
宙の真理」であつてそれ
を説くには無限宇宙時間
がかります。
は、それを文字にするや
り無限の文字になる。大
宇宙の「真理」は説かれて
いない。

肉体を持った釈迦、人
間である釈迦には、法華

経を説くことは出来ない。

ではどうすればよいか。
簡単です。

肉体を捨てれば良いの
です。

釈迦世尊が肉体を捨てて、
時間と空間を超越した宇
宙仏となつたとき、その
宇宙仏は、無限宇宙時間
のあいだ法華經を説き続
けることができます。

コップの中の水は、放置
すれば蒸発して空っぽに
なる。

しかし水がなくなつた
のではなない、H₂Oとい
う子となつて「空間に拡が
つて

八十年の生涯水であつた
が、滅後肉體を出て宇宙
空間に拡散された宇宙仏
となつた。

法華經はそれを「久遠
実成の仏」と呼んでいる。

そう書いてあります。

お経が書かれたのは釈
迦入滅後三百年、五百年
経つてからのこと。

それでは五百年後の僧

達がお勝手に自分たちの
作らうとそうではな
いのかと
す。

入ったと瞑想し、禅定に
入つたところ、宇宙仏
であるお釈迦様とテレパ
シで通信をすること
が出来た、だからお経を
のこすことができた、お
経を創

テレパシーにてお経本
を作成したということ、
靈など信じない佐々木先
生やひろ先生が同じこと
を仰つてお経を創ること
に私

以上で第一部を終えよ
うと思ひます。

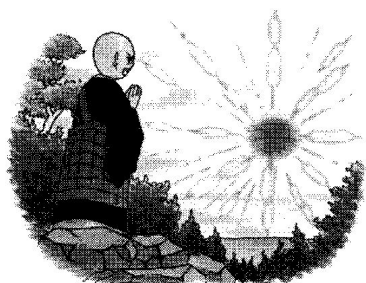
次号

法華經の選

上日蓮

法華經の選

心經を
考へ、思
心に参究
致しませ
す。



心經を
考へ、思
心に参究
致しませ
す。